

米国無門空手一行2度目の来日を歓迎

令和元年度米国 本多定晴先生一行武道交流事業



交流演武会で無門空手の演武を披露

5月30日から6月5日にかけて米国より無門空手一行4名が来日し、国際武道大学の協力を得て、2度目となる「令和元年度米国 本多定晴先生一行武道交流事業」を日本武道館などで実施した。

無門空手とは、松濤館の空手道を学んだ本多定晴先生が、流派にとらわれず、伝統的な空手道を米国で伝えていくために活動している団体である。

今回、本多定晴先生は検査入院のため、来日が叶わなかった。

※予定されていた本多先生の講義「最新アメリカ空手事情」を特別寄稿として本誌152〜159頁に掲載しております。

▽5月30日（1日目） 一行は午前中に三輪田学園（東京都千代田区）を訪れ、中学校武道必修化に沿った

内容の空手道授業を視察した。喜納真由美三輪田学園中学校高等学校非常勤講師の「生徒を楽しませる授業」に一行は釘付け。視察を終えた代表のポール・コバックス氏は「三輪田の生徒の『礼』が素晴らしかった」と授業での武道の効果に感動した様子であった。喜納講師は「礼儀を中心とした授業を実施しています。アメリカの皆さんに私が大切に

していることが伝わりよかったです」と所感を寄せた。

その後、日本武道館に移動し、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長をはじめ、振興部普及課職員が総出で一行を出迎え、日本武道館大会議室にて昼食会を開催した。

三藤常任理事が「2度目の来日を中心から歓迎いたします。楽しい懇談にしましょう」と歓迎の挨拶。和やかな雰囲気の中で用意された江戸前寿司に舌鼓を打った。食事中は、三藤常任理事が通訳を介さず英語で、



ジム・ドナルドソン氏
空手歴5年・三級



ウィリアム・トムキャンニン氏
空手歴50年・三段



マーク・ワインガーデン氏
空手歴47年・三段



ポール・コバックス氏
空手歴47年・五段
無門師範



三藤芳生
日本武道館
常任理事・事務局長



「日本の武道事情」について説明する
三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長



熱心に三輪田学園の空手道授業を視察する一行。左が喜納講師

日本武道館ロシア派遣事業のDVDを鑑賞しながら、日本武道館の国際交流事業について解説した。

小休止の後、岡林俊雄、柴田智敬、武道学園空手道の両講師、吉井美恵子同なきなた講師と、福田聡早稲田大学空手部総監督、通訳担当の西木健氏が合流し、「日本の武道事情」をテーマに情報交換会が行われた。

続いて、岡林、吉井、柴田の三氏からそれぞれ武道学園での指導上の目的や武道修行の心得などについて話があった。短い時間ではあったが日本の武道事情をより深く理解することができたのではないかな。

一行は一度宿舎に戻った後、慶應義塾大学信濃町キャンパスの三田空手会木曜会へ出向き、2年振りとなる交流稽古に臨んだ。一同は再会を喜びながら、船越義珍翁伝来の空手を稽古し、心地よい汗を流した。

◎岩本明義三田空手会木曜会相談役「約100年前に船越義珍先生によって本土に伝えられた琉球唐手を体験してもらったことができました。空手道はバランスの良い心身を養う鍛錬として非常に有効です。空手の交流を通じて、稽古の厳しさと相手を尊敬

する優しさを学んでほしいです」

▽5月31日（2日目） 午後1時30分より、明治神宮至誠館弓道場・全日本弓道連盟中央道場において石川武夫範士九段（元全日本弓道連盟会長）を講師として、弓道体験会が行われた。

通訳を介して一人ずつ丁寧に解説と指導をする石川講師だが「どうしてもアーチェリーになっちゃうね」と課題を発見。一行は離れの時に右手を上手く離せずに西洋弓のような格好となってしまう。「左手は、弓を持つのではなく、輪を作つてそこに弓を通すイメージです。《会》の時に弦が張りますので、弓はしっかり抑えられ、離すと弓は回転します」。何も足さず何も引かない、基本的な美意識が含まれた合理的な所作に、一行はうなずき、各々感嘆の声を上げていた。それ以降も的には中らないものの、一行は一所懸命に射法を繰り返した。

体験会の終了後、ワインガーデン氏が「体の姿勢や求められる呼吸や集中力は空手に近いと感じました。特に離れの感覚が空手の追い突きの



ワインガーデン氏は初めての弓道体験で笑みがこぼれる。
左が石川武夫講師



三田空手会木曜会と無門空手一行。右から2人目が岩本氏。
左端が「空手道その歴史と技法」の筆者である和田光二氏



杖道体験



なぎなた演武

感覚と似ていました」と一つ一つ、領
きながら語ってくれた。

◎石川武夫範士九段

「一行の方々は武道をやっていたか
らある程度はできました。やっぱり
武道をやっていますから、共通点も
あるでしょう。皆さんも同じ目的
で稽古していると思います」

弓道体験会後は、日本武道館小道
場に移動し、夕刻より武道学園の授
業を視察した。柔道は永福栄治講師
が、剣道は太田忠徳講師が中心とな
って武道学園生徒を指導。一行は目
を凝らして1時間たっぷり見学し、
この日の全日程を終了した。

▽6月1日(3日目) 日本武道館

小道場で日本武道館武道学園との交
流演武会が行われ、武道学園からは
柔道、空手道、合気道、少林寺拳法、
なぎなた、杖道の講師・生徒およそ
70名が参加し、盛大に実施された。

午後2時から開会式が行われ、は
じめに主催者を代表して三藤常任理
事が挨拶。次に、一行を代表してコ
バックス氏が挨拶。その後、なぎな
たの吉井美恵子講師が講師を代表し
て挨拶を行った。

少林寺拳法、合気道、杖道、なぎ
なた、空手道の順に各種目25分で演
武・体験が行われた。一行は演武者
の一挙手一投足を熱心に見学した
後、その技法を少しでも習得するべ
く、真剣な表情で体験に取り組んで
いた。

各種目による演武・体験の後は、
一行による無門空手の演武が行われ
た。コバックス氏による解説を交え
ながら、ワインガーデン氏とトムキ
ヤニン氏によつて無門空手の入身と
居合の演武が披露され、演武終了後
には参加者から大きな拍手が送られ
た。

閉会式では鈴木達也日本武道館振
興部長兼普及課長による主催者挨
拶、コバックス氏による講評、空手
道の岡林講師による講師代表講評が
行われ、演武会は所期の目的を達成
し、終了した。

演武会終了後、ホテルグランドパ
レスに場所を移し、三藤常任理事の
主催者挨拶、柴田智敬空手道講師の
乾杯で歓迎パーティーを開始。交流
演武会を通して打ち解け合った一行
と武道学園講師・生徒は、アットホ
ームな雰囲気の中、武道談義に花を

令和元年度米国 本多定晴先生一行交流演武会

International Exchange on Occasion of the Visit of the
Sadaharu Honda Delegation from the
United States of America Project 2019



演武会の参加者全員で記念撮影



松井完太郎国際武道大学副学長（左）より記念品が贈られた



武道大学学生と一緒に空手道の授業を体験。
右から4人目が荒川氏

「大変有意義な時を過ごしました。昔、空手が世界に広まる前にアメリカへ渡った本多先生の教えは、今でも日本の伝統的な空手として伝えられていることを、稽古に臨む彼らの姿勢から垣間見て取られました」

◎荒川尊祐国際武道大学特任准教授
兼空手道部監督

「7歳の体にはハードなトレーニングでした（笑）。私たちは本多先生から指導を受けております。先生の空手は本物の日本の空手であり、昔から形を変えない伝統的な空手を学んでいます。今回の来日で改めて、全ての武道家が同志であり、全ての人々が共感できるものだと感じました。武道は全て繋がっている、これが私の今回学んだ全てです」

咲かせた。

渡辺待男少林寺拳法講師による講師代表挨拶の後、日本武道館から一行一人ひとりに記念品が手渡され、パーティーは盛会裡に終了した。

▽6月4日 一行は国際武道大学に移動。午後1時10分より荒川尊祐同学特任准教授兼空手道部監督の指導のもと、3・4限の授業に参加した。3限目は競技空手の基本授業。4限目は形についての授業。流派ごとの動きや考え方の違いについて学んだ。一行は荒川准教授の丁寧な教えに対し、熱心に耳を傾け、生徒も一行との交流に積極的に取り組んだ。

稽古終了後には研修センターで空手道部の学生と夕食会で親睦を深めた。松井完太郎国際武道大学副学長が駆けつけ、歓迎の挨拶を述べた。参加者たちはボディランゲージを混じえながら交流し、有意義なひとときを過ごした。

▽6月5日（最終日） 三藤常理事と吉川英夫日本武道館事務次長兼研修センター所長が研修センターに出向き、記念品を贈呈した。一行は別れを惜しんで固い握手を交わし、今回の来日の感想とお礼を述べ、研修センターを後にした。



◎武道交流事業全日程を終えて

ポール・コバックス氏